

第3学年2組 算数科学習指導案

指導者

1. 単元名 「あまりのあるわり算」
2. 単元目標

知識・技能	○ 余りのあるわり算の仕方が分かり、その計算ができる。また、場面に応じて、余りを的確に処理することができる。
思考・判断・表現	○ わり算の意味に基づいて、余りのあるわり算の答えの求め方を考えることができる。また、わる数と余りの大きさの関係をとらえることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 余りのあるわり算の問題に進んで取り組もうとする。

3. 学習指導計画（6時間目／全8時間）

- (1) あまりのあるわり算のしかた（4時間）
 - ・既習内容と生活場面による、余りのあるわり算の動機づけ
 - ・包含除で余りのあるわり算の意味理解、適用題 ①
 - ・(余り) < (除数) の関係の理解 ②
 - ・等分除で余りのあるわり算の意味理解、適用題 ③
 - ・余りのあるわり算の答えの確かめ方 ④
- (2) ・余りのあるわり算の練習、適用題（1時間）
- (3) あまりを考えて（2時間）
 - ・**余りを切り上げる問題の解決** ① 本時
 - ・余りを切り捨てる問題の解決 ②
- (4) 学びのまとめ（1時間）

4. 課題解決のための手だて

本学級の児童は、学習中に与えられた課題に対しては一生懸命に取り組む。しかし、学力が低いために、十分な問題把握や見通しをもつことが難しい児童が多い。わり算の答えが中々出てこなかったり、余りを出すためのひき算が出来なかったり、既習学習が定着していない。そのため、自分の考えに対して自信がもてず、発言ができない児童もいる。しかし、友達の考えはよく聞き、理解したいという思いは強い。全児童が少しでも見通しをもち、図や言葉で問題解決へ取り組めるよう、問題文に印を入れたり、キーワードになる言葉をみんなで考えたりするなど、個人思考までに丁寧に押さえていくことが必要であると考え。

【手だて1】見通しをもたせるための工夫①

- 児童一人一人が見通しをもてるようにするために、挿絵を手掛かりに、長いすの意味や、児童が4人ずつ座っていく意味を確認し、題意をつかませる。式を立てた後に、8は長いすの数の8きやく、3は残りの3人であることを確かめる。

【手だて2】見通しをもたせるための工夫②

- 既習の学習では、「いくつ余り(残り)ますか」という問いがあった。しかし、本時では、「みんなすわるには、長いすが何きやくいりますか」のように、余りを問う言葉がないことに気付かせ、児童が答えの長いすの数は8脚でよいのか、あまりをどうすればよいのかなど問いをもってきたところで、本時のめあてを設定する。答えの求め方を考える上で、「みんなすわる」というキーワードを押さえる。さらに、ブロック図の書き方を再度振り返りながら、途中までの段階を確認することで、自力解決ができるようにする。

【手だて3】自分の学びを振り返り「できた」「分かった」を実感する工夫

- 学習後、自分の考えや学習を振り返っていく。授業の始めには、よい振り返りを随時児童達に知らせるようにし、より深い振り返りができるようにしていく。

5 本時の学習 令和2年 12月 2日(火)
第3校時 於：3年2組教室

- (1) 主眼
問題場面にあわせて余りの処理の仕方を考え、余りを切り上げて処理することができるようにする。
- (2) 準備
問題用紙、ブロック図(教師用、児童用)、話型、適用題、キーワードカード
- (3) 展開



つかむ・見通す	個人思考	集団思考	適用題	まとめ・振り返り
<p>1. 前時までの学習の振り返りを行い、本時の問題を捉え、式を立てる。</p> <p>35人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。 みんなすわるには、長いすが何きやくいりますか。</p> <p>○ わかっていること、使う数字、おたずね文に印をつけ、式と答えを立てさせる。</p> <p>○ 式の中の数字が何を表しているかを押さえる。</p> <p>○ 既習の文章問題との違い、おたずね文に余りを問う言葉がないことに着目させ、答えに余りを書かないことを押さえる。</p> <p>2. めあてを立てる。</p> <p>めあて あまりをどうすればよいのかを考えて、答えをもとめよう。</p> <p>○ おたずねの文の中から答えの書き方についてキーワードになる言葉を確認させる。</p> <p>みんなすわる</p>	<p>3. 答えの書き方について考える。</p> <p>(個人思考)</p> <p>○ 図の書き方を確認させる。</p> <p>○ 言葉の書き方を確認させる。</p> <p>○ 言葉、図どちらから考えてもよいことを知らせる。</p> <p>【予想される児童の考え】</p> <p>① あまりをそのまま書き答えを求めている(8きやくあまり3人) 指示：今までと同じ答え方だね。今日は、何きやくになるかを求めるんだったね。</p> <p>② あまりを切り捨てて答えを求めている(8きやく) 指示：あまりの3人はどうする？キーワードは、何だった？</p> <p>③ あまりを切り上げて答えを求めている(9きやく) 指示：8きやくではないんだね？なぜ9きやくになったか図や言葉で説明できるようにしてみよう。</p>	<p>4. 自分たちの考えを深め合う。(ペア)</p> <p>○ ペアで自分の考えを伝え合う。その際、途中段階であっても「どのような答えになったか」「どうしてその答えになったか」の視点を与えることで、互いの考えを明確に伝え合うことができるようにさせる。</p> <p>(全体)</p> <p>○ 図を書いて考えた児童、言葉を書いて考えた児童、それぞれ説明させる。</p> <p>○ 「みんなすわる」のキーワードに立ち戻り、式と図、言葉と関連付けながら全体で確認していく。</p>	<p>5. 適用題をする。</p> <p>○ わかっていること、使う数字、おたずね文に印をつけ、式を立てさせる。</p> <p>○ 答えの書き方について、キーワードになる言葉を確認する。</p> <p>全部運ぶ</p> <p>全部読む</p> <p>○ 式の中の数字が何を表しているかを押さえる。</p> <p>○ 適用題でさらに2つのキーワードとなる言葉を考えながら、答えを求めることで、児童が「わかった」「できた」と実感できるようにさせる。</p>	<p>6. 本時の学習を振り返り、児童の言葉をもとに、まとめをする。</p> <p>○ 本時のキーワードをもとに、どのように考え、答えを書いたか学習を振り返る。</p> <p>○ 児童の言葉をもとに、全体で本時の学習をまとめる。</p> <p>まとめ あまりがあるときは、問題にあうように考えて、答えを1ふやすことがある。</p> <p>7. 振り返りをする</p> <p>○ 振り返りの際は、振り返りのポイントを提示する。</p>
0(分)	10	20	30	38
				45(分)